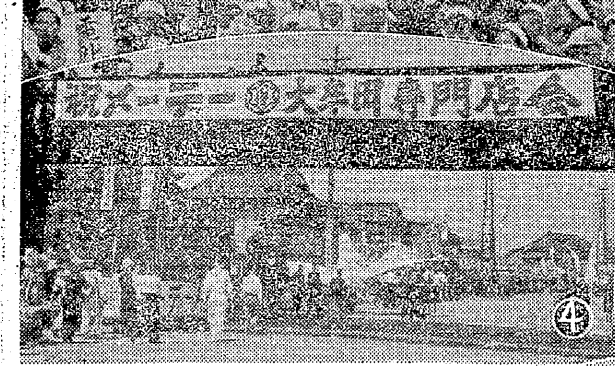
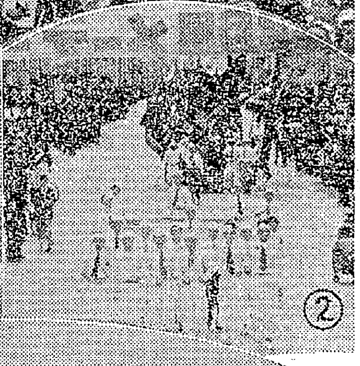
『祝』第二十六回大牟田統一メーデー

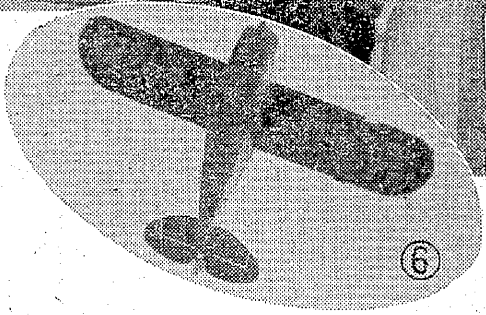
①



④

③


②


⑥

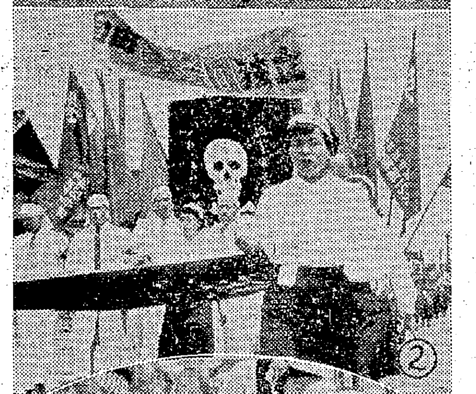
⑤

発行所
三池炭鑛労働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭電 528 475番

編集兼発行人 平島敏治
三鉱労組印刷工場

三鉱労組
機関紙

①


②

③

④

⑤

戰後最大のメーデー

公認候補全員当選で意氣揚る

商店も飛行機を飛ばす

第二十六回大牟田、荒尾地區メーデーは連日の雨もあがり労仂者、農民、商人がそれ〲自分達の祭りだという自覺のもとに両地方所定の場所に集合した。

【寫眞説明】①大会場の一部 ②三鉱労組デモ隊 ③右から宮川組合長、川口県議、浦川県議、阿具根参議、細谷新市長 ④歓迎アーチ ⑤荒尾炭婦協のデモ隊 ⑥商店街の好意で飛んだ飛行機

労農商四萬が集り

市長に祝福の拍手起る

大牟田地区統一メーデー

大牟田地区メーデーは例年通り笹林公園で午前十時から開催された今次のメーデーは全国的に労働者農民、商人の人々の参加が予想されていたが、大牟田地区は戦后最大の動員となつた。

こんどの参加団体に揃いのヘツピで労農商提携のプラカードを立てた商店街の人々、また染料の婦人会の人々が炭婦協に負けじと参加したことは注視の的であつた。開会に先立ち労働者の祭典らしく自由労組、炭婦協の踊りで開幕された。議長団に宮川三鉱労組々合長外主婦、農民、商人の代表が満場一致で推薦され、大牟田歌う会の指導で労働歌を合唱後議事に入る。議事は予定通り進み

一、労働者の団結で自由と平和、生活と権利を守ろう。

一、労働者、商人、農民、漁民等の提携強化、統一闘争要求を闘いとろう。

一、カマスにかわる麻袋の使用に反対しよう。

一、中小商工業者に減税と融資を拡大するために頑張ろう。

等三十一項目のスローガンを決定し、宣言文、決議文、抗議文をそれぞれ決定し、第二十六回メーデー万才の声も高らかに大会を終了、つゞいて一大デモ行進にうつる。三鉱労組のニユースカーを先頭に全逓の自転車隊がつゞき、四万に近い人々が市の中央大通りを市民の拍手の中に行進をすゝめた。この時、市内商店街有志の厚意による飛行機が翼を赤々と塗つて脱メーデーの文字もあざやかに飛来すれば、デモ隊や観衆が一齊に万歳を叫んだ。二十万枚に及ぶビラが市内上空で桜花の舞うように散り、労働者の団結を祝う様であつた。午后二時頃になり市長の開票結果も一応細谷有利という見解がなり立ち、実行員の中には「今日のこの労働者や農民、市民の団結をみて必ず細谷は勝つ」「未来の市長細谷」「市長細谷」というマイクに市民の人々は「新市長万歳」と叫ぶ。ニユースカーの上には未来を約された細谷新市長、阿具根参議、田中代議士、小宮、浦川の各県議が観迎に応えて手をふり歴史的な大牟田地区の第二十六回メーデーも感激の中に幕を閉じた。

明るい世の中へ

市長 市議 挨拶に万来の拍手

荒尾地区統一メーデー

荒尾統一メーデーも、この日会場に当てられた第二小学校広場で労働者を中心に中小企業の人たちや遠く麓からかけつけた農民の人たち、始めて参加するという第一紡綱三七〇〇の乙女たち等約一万三千名が集つて午前十時から華々しく開催された。

特に荒尾でのメーデーは前日の市長市議投票の結果、早くも市長を始め荒地評の公認十二名中十名当選という素晴らしい勝利にメーデー祭典の喜びはいやが上にも高まり、会場一杯集まる顔はどの顔をみても喜びの表情をかくしきれず一九五五年のまさに最良の日であつた。

晴れた五月の…と会場をどよもすメーデーの歌で式は開始された。議長団に田中（市教組）五島（炭婦協）小木（第一紡綱）の三氏を選出し、前川荒地評事務局長の経過報告、松本実行委員長の挨拶を終り「労働者の団結で自由と平和生活と権利を守れ」など大会スローガンは万場一致で激しい拍手に迎えられて採択された。

ついで坂田市長、酒井県議以下新議員当選者十三名が舞台に立ち労働者のための明るい世の中をつくるためにしつかりやりますと挨拶すれば拍手は大きな響となつてこの日の祭典の気分はクライマックスに達した。

折から会場にかけつけた阿具根参議から喜びのメッセージが送られ各団体よりのメッセージや意見発表後高らかに労働歌を合唱して第二隊に別れてデモ行進に移つた。

操縦士も感激！

翼を振って盛んに聲援

危ぶまれた天候も正午近くなつてすつかり晴れ、絶好の飛行日和であつた。私の乗る飛行機が鹿児島から予定より一時間遅れて熊本に来たゝめ、燃料補給やらで結局離陸したのは十二時を少し過ぎてからだつた。大牟田までの所要は直行で約二十分、玉名、荒尾の両市でビラ、花束投下を行つてから大牟田上空に来たときは一時近くすでにデモ行進に入つていた。

スワ川鉄橋附近の上空にさしかゝつて最初警察署前を行進するデモの列を発見した。

機体をぐん〱降下させ、旋回につぐ旋回でデモ隊に祝福を贈るとデモ隊からも一齊に旗が振られた。おそらく五万人は居ると思われた。先頭が三鉱労組のニユース・カーで、次に大地評旗が鉢巻姿の婦人の手に四方から囲まれて進んでいた。旭町ガードに先頭が来ているのに、最後尾はまだ大会場に残つていた。私はこの時玉名、荒尾に次ぐ旋回降下で、機上で嘔吐袋の御世話になつていたが、旗を振り、手を振つて応えるデモ隊が眼に入ると、私も風防内から盛んに手を振つて応えた。この時私は何かしら労働者の力強さをひしひしと感じ目頭を熱くした。気分の悪さも忘れて私は夢中でシャッターを切つた。

間もなく柳川へ方向をとつて再び大牟田上空に引返した時は、既に先頭は解散していたが、延々と続くデモの列は末だ笹林公園にその後尾があつた。

操縦士は南日本航空の社長で、かつて真珠湾を攻撃した戦闘機乗りの元海軍中佐であつた。

航空時間は一万時間に近いと云つていたが、その人も大牟田のメーデーはすごいですね、と幾度となく繰返しては、感激してか翼を振り、旋回しては上空から盛んにデモ隊に声援を贈つてくれた。

水平飛行では翼の支柱が邪魔で写眞を撮る事が出来なくて、急旋回するごとに二台のシャッターを次々に押しまくつたが、降りて始めて六十枚近く撮つているのに気がついた。

（本部 西森一識）

【寫眞説明】①初参加の商店デモ隊 ②三鉱本部デモ隊 ③子供デモ隊 ④三作支部デモ隊 ⑤三染の仮装デモ隊